

2022・8

# 柏の景気情報

令和4（2022）年8月の調査結果



柏商工会議所

The kashiwa Chamber Of Commerce and Industry

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課

〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18

TEL : 04-7162-3305

FAX : 04-7162-3323

URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>

E-mail : [info@kashiwa-cci.or.jp](mailto:info@kashiwa-cci.or.jp)

# 柏の景気情報 (令和4年8月の調査結果のポイント)

## ★調査結果のまとめ

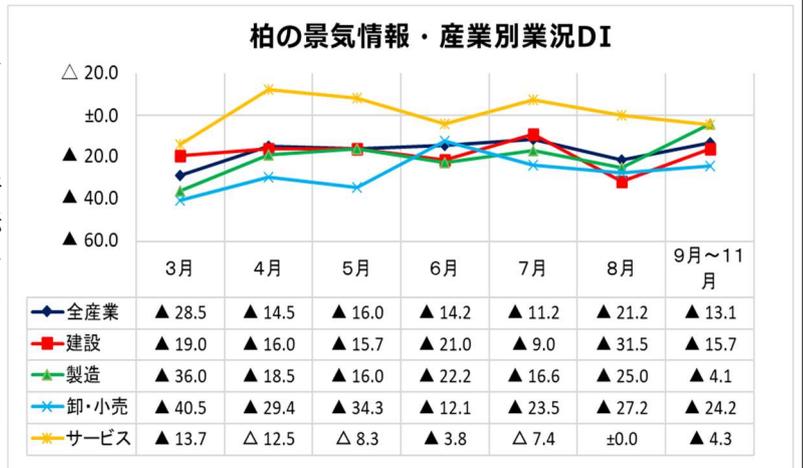
調査期間: 令和4年8月22日～9月2日 調査対象: 柏市内148事業所及び組合にヒアリング、回答数99

### 全産業DIは大幅に悪化。先行きは改善への期待感はあるが、資材や光熱費の高騰で採算悪化の懸念強い

8月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲21.2(前月水準▲11.2)となり、マイナス幅が10.0ポイント拡大した。

8月は、全ての業種でDI値が悪化。感染者増加による人員管理、生産への支障や、猛暑による外出控え、部品の供給不足、資材や燃料等の繰り返される値上げにより、価格転嫁をしてもなお利益減少等のコメントが多く寄せられた。一方、行動制限のない夏休みになったことによる人流増加、柏市のペイペイポイント還元キャンペーンによる売上増加等についてもコメントが寄せられた。

先行きDIは▲13.1(今月比+8.1)と改善への期待感はあるが、資材や光熱費高騰で採算悪化の懸念は強い。

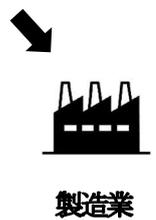


## ★業種別の動向

前月と比べたDI値の動き 改善 横ばい 悪化



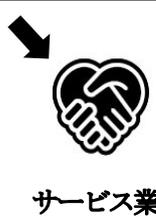
「社内で感染者が多発し、お盆休み明けは事務所をしばらく閉鎖した。業務への影響が非常に大きく、特効薬を期待するしかない」(塗装工事業)、「相変わらず、仕入業者から単価の値上げについて案内が届く。以前は機械のリースに案内はなかった。燃料を使う物に対し、驚くほど単価が高騰している」(とび)、「屋上に太陽光パネルを余剰買取契約で設置しており、日中今の時期はほぼ自家発電でまかなえている」(一般土木建築工事)



「ここにきて従業員の感染が広がっている。納期遅延を出さないよう各部で協力していかなければならない」(金属製品)、「コロナの影響で落ち込んだ医療品容器の受注に改善が見られた。化粧品容器はまだまだ勢いが足りない」(プラスチック加工)、「コロナ第7波の影響で酒類の販売量が減少傾向。エネルギーや原材料の値上げが重くのしかかる」(酒類)、「コロナ後、異常気象やウクライナ問題などで様々な部材が入手しにくく、価格も上昇している。電子部品、原材料を発注しても納期の見通しが立ちにくい状況が常態化しており、今後改善の見通しが立たないのが非常に不安」(電子機器)、「半導体不足の影響で、在庫部品を増やして新規受注に対応するため、キャッシュフローが悪化する予定」(機械・同部品)



「包装資材等の値上げが続き、価格転嫁のタイミングが難しい」(食料卸売)、「お盆は昨年より帰省する人が増え、土産関連が良かった。柏市のペイペイ企画により、売上の2割をペイペイが占めた」(大型小売店)、「コロナ陽性者が多くスタッフ管理が大変で、感染が一番身近に感じられる月だった」(各種商品小売)、「行動制限の無い夏休み、セール月で人流は改善し、売上・取扱高も前年比で大幅改善。コロナ前の水準まで戻る。外出ニーズも有り、被服・雑貨も好調」(百貨店)、「柏市のペイペイ効果が売上増。電気代の増加が異常」(洋菓子店)、「猛暑日が多かった影響か人通りが少なく、購買意欲も低く感じる。涼しい日に客足が集中する」(ペット用品販売)、「商品を値上げしても仕入等の上昇が上回って利幅減。いたちごっこになっている」(農産物卸売)、「世界的インフレで、輸出先の景気が悪くなっている。円安は業界的に追い風だが、今年の下半期は厳しそう。国内メーカーの新品が通常出荷に戻れば好転しそうだが、トータルでは世界的な景気減速の影響の方が大きい」(産業機械器具卸売)



「コロナ感染で欠席の場合、授業料の返金や補習で対応するが、補習は人件費がかかり予想以上の売上減と人件費増」(学習塾)、「賃貸住宅需要が増え、特にファミリー向けは賃料が上昇」(不動産賃貸・管理)、「7月後半より予約キャンセルが続き、売上が大幅減」(日本料理)、「運賃値上げ交渉が進まない中、公共料金の高騰で利益減。この状況が続くと業界の淘汰が懸念される」(一般貨物自動車運送)、「消費行動の冷え込みを感じる。教育費削減を検討する家庭は多い」(教育サービス)、「脱炭素の一環で地熱開発・風力発電に対する地質調査が増加。また、防災面で河川堤防の改修・新設調査も予定。規模の大きい案件が控えており、好転すると思われる」(土木建築サービス)

## ★全国の商工会議所早期景気観測調査(CCI-LOBO)との比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲21.2に対し、「CCI-LOBO」が▲21.0で、柏の方がマイナス幅が0.2ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、卸小売業、サービス業であり、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業である。

# 今月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI - LOBOとの比較

| 景気天気図         |              |              |              |              |              |
|---------------|---|---|---|---|---|
|               | 特に好調<br>DI ≥ 50   | 好調<br>50 > DI ≥ 25  | まあまあ<br>25 > DI ≥ 0   | 不振<br>0 > DI ≥ ▲25  | 極めて不振<br>▲25 > DI   |
| <b>業況DI</b>   | 全産業   | 建設  | 製造  | 卸小売   | サービス  |
| 柏の景気          | <br>▲ 21.2   | <br>▲ 31.5   | <br>▲ 25.0   | <br>▲ 27.2   | <br>±0.0     |
| CCI-LOBO      | <br>▲ 21.0   | <br>▲ 26.4   | <br>▲ 18.9   | <br>▲ 30.7   | <br>▲ 10.2   |
| <b>売上DI</b>   | 全産業   | 建設  | 製造  | 卸小売   | サービス  |
| 柏の景気          | <br>▲ 3.0    | <br>▲ 21.0   | <br>4.1      | <br>▲ 6.0    | <br>8.6      |
| CCI-LOBO      | <br>▲ 8.0    | <br>▲ 23.7   | <br>▲ 2.8    | <br>▲ 21.3   | <br>6.0      |
| <b>採算DI</b>   | 全産業   | 建設  | 製造  | 卸小売   | サービス  |
| 柏の景気          | <br>▲ 28.2  | <br>▲ 36.8  | <br>▲ 29.1  | <br>▲ 27.2  | <br>▲ 21.7  |
| CCI-LOBO      | <br>▲ 25.2 | <br>▲ 33.5 | <br>▲ 29.3 | <br>▲ 28.3 | <br>▲ 14.6 |
| <b>仕入単価DI</b> | 全産業   | 建設  | 製造  | 卸小売   | サービス  |
| 柏の景気          | <br>▲ 69.6 | <br>▲ 57.8 | <br>▲ 95.8 | <br>▲ 75.7 | <br>▲ 43.4 |
| CCI-LOBO      | <br>▲ 72.3 | <br>▲ 82.5 | <br>▲ 80.1 | <br>▲ 68.6 | <br>▲ 62.8 |
| <b>従業員DI</b>  | 全産業   | 建設  | 製造  | 卸小売   | サービス  |
| 柏の景気          | <br>13.1   | <br>21.0   | <br>12.5   | <br>12.1   | <br>8.6    |
| CCI-LOBO      | <br>17.7   | <br>29.7   | <br>12.2   | <br>12.2   | <br>20.7   |
| <b>資金繰りDI</b> | 全産業   | 建設  | 製造  | 卸小売   | サービス  |
| 柏の景気          | <br>▲ 24.2 | <br>▲ 26.3 | <br>▲ 33.3 | <br>▲ 21.2 | <br>▲ 17.3 |
| CCI-LOBO      | <br>▲ 17.1 | <br>▲ 13.1 | <br>▲ 17.5 | <br>▲ 23.5 | <br>▲ 15.9 |

# CC I - L O B O

## 商工会議所早期景気観測(8月速報)

調査期間：2022年8月16日～22日

調査対象：全国の331商工会議所が2,566企業にヒアリング調査を実施

### 全国の業況

業況DIは、物価高と感染拡大で半年ぶりの悪化。先行きは、感染沈静化を見通せず、厳しい見方

8月の全産業合計の業況DIは、▲21.0と、前月から▲3.2ポイントの悪化。感染拡大の継続に猛暑や大雨が重なり、帰省や旅行、会食等を控える動きが見られ、飲食・宿泊業などのサービス業や百貨店などの小売業で業況が悪化。小売業・サービス業からの引き合いが減少した卸売業も業況が悪化した。半導体等の部品供給不足が継続する製造業も業況が悪化した。堅調な民間工事に下支えされた建設業では業況が改善するも、資材や燃料価格の高止まりによる負担増が続き、力強さを欠いている。資源・原材料価格の高騰や円安によるコスト負担増が継続する中、物価高による消費マインドの低下や、感染拡大の継続、猛暑・大雨による外出控えにより、中小企業の業況は、半年ぶりの悪化となった。

先行きについては、先行き

見通しDIが▲26.6(今月比▲5.6ポイント)と悪化を見込む。今後も感染拡大が継続し、従業員の感染による生産や取引などへの影響を懸念する声が業種を問わず聞かれた。特に、サービス業や小売業では、消費者の外出控えによる需要減を危惧する事業者が増加している。資源・資材価格の高騰が長期化し、コスト増加分の十分な価格転嫁が追い付かず、収益確保も難しい中、感染の沈静化を見通せず、中小企業の先行きは、厳しい見方となった。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

業種別にみると、今月の業況DIは前月に比べ、建設業は改善、その他の業種は悪化した。各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「民間企業からの工事受注数は順調に推移しており、売上も着実に確保できている。資材価格の高騰

などでコスト負担は増加しているものの、生産性向上に向けた対策を実施することで、全体として経費削減に取り組んでいる(一般工事業)、「工事受注数は増えてきている。従業員の感染により、受注を止めることがないよう、感染対策を継続していく(管工事業)」

【製造業】「原材料価格や燃料費の高騰によってコスト増が続いているが、消費者の購買意欲の低下が見られ、既存商品は値上げが厳しい状況である。付加価値のついた新しい製品の販売に着手し、売上改善を図っていきたい(水産食料品製造業)」、「供給不足の継続で、部品の値上がりが続いており、収益を圧迫しているが、必要不可欠な機械設備の受注は増えている(一般産業用機械製造業)」

【卸売業】「包装資材の価格高騰が続いているものの、コロナ禍以降に開拓した販路先との取引が好調のため、売上確保に繋がっている。一方で、物価高の影響で生活必需品以外の商品の売れ行きが伸び悩んでおり、今後も新たな打開策を検討する必要があると考

えている(繊維品卸売業)、「感染拡大により、取引先の飲食店などで会食等のキャンセルが一部出ており、受注が減少傾向にある(食料・飲料卸売業)」

【小売業】「一度重なる仕入価格の上昇が続く中、新型コロナウイルスの感染拡大による消費者の外出控えと異常気象の影響もあり、見込んでいたよりも店舗への来客数は減少しており、売上確保に苦戦を強いられている(書籍・文房具小売業)」、「感染拡大により、顧客の来店頻度は減少するも、まとめ買いで客単価は上昇。客単価は維持し、顧客確保を図り、売上改善に努めたい(総合スーパー)」

【サービス業】「人流の回復で、宴会等の予約状況も改善に向かっていたため、準備を進めていたものの、感染再拡大による直前での予約キャンセルが増加し、予想よりも売上が上がらなかった(飲食業)」、「前年と比較すると、新型コロナウイルスによる影響は限定的であるが、このまま感染者数の増加が続くと再び経営が苦しくなる(旅行業)」

### 全国・産業別業況DIの推移

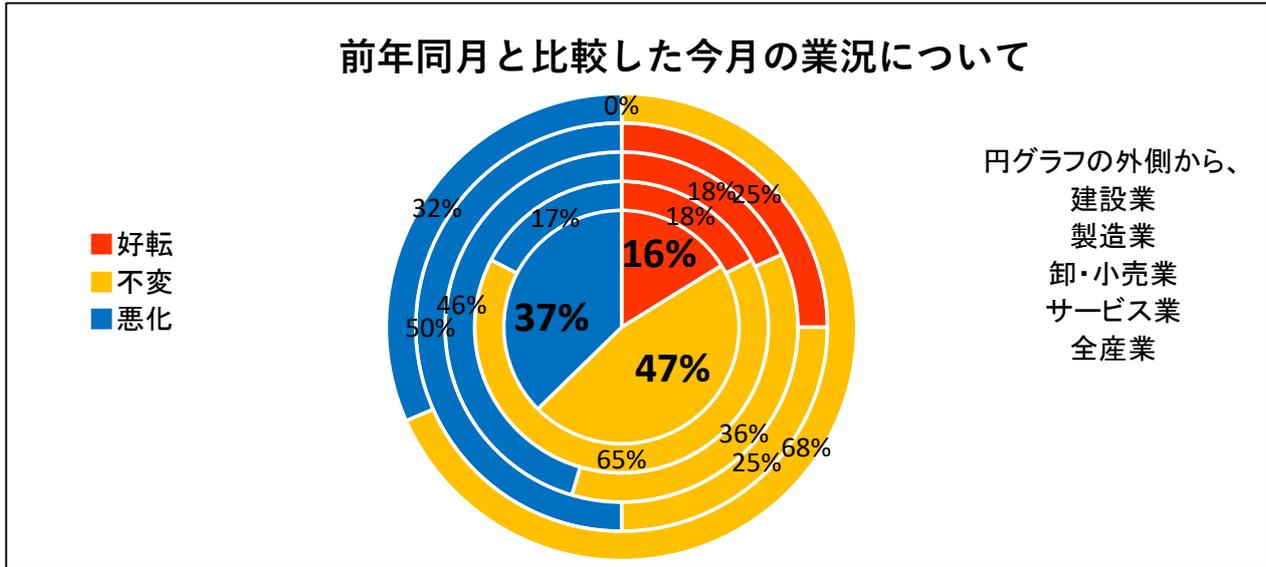
「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

|     | 全産業   | 建設    | 製造    | 卸売    | 小売    | サービス  |
|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 3月  | ▲32.7 | ▲23.6 | ▲25.0 | ▲33.3 | ▲40.9 | ▲39.0 |
| 4月  | ▲25.7 | ▲27.0 | ▲17.0 | ▲28.3 | ▲39.5 | ▲21.1 |
| 5月  | ▲20.4 | ▲31.3 | ▲15.4 | ▲20.2 | ▲31.8 | ▲9.3  |
| 6月  | ▲20.3 | ▲29.3 | ▲19.8 | ▲22.0 | ▲32.2 | ▲4.4  |
| 7月  | ▲17.8 | ▲28.7 | ▲17.9 | ▲18.1 | ▲25.2 | ▲4.1  |
| 8月  | ▲21.0 | ▲26.4 | ▲18.9 | ▲24.8 | ▲30.7 | ▲10.2 |
| 見通し | ▲26.6 | ▲24.9 | ▲22.0 | ▲29.1 | ▲35.3 | ▲24.2 |

# 令和4年（2022年）8月の動向

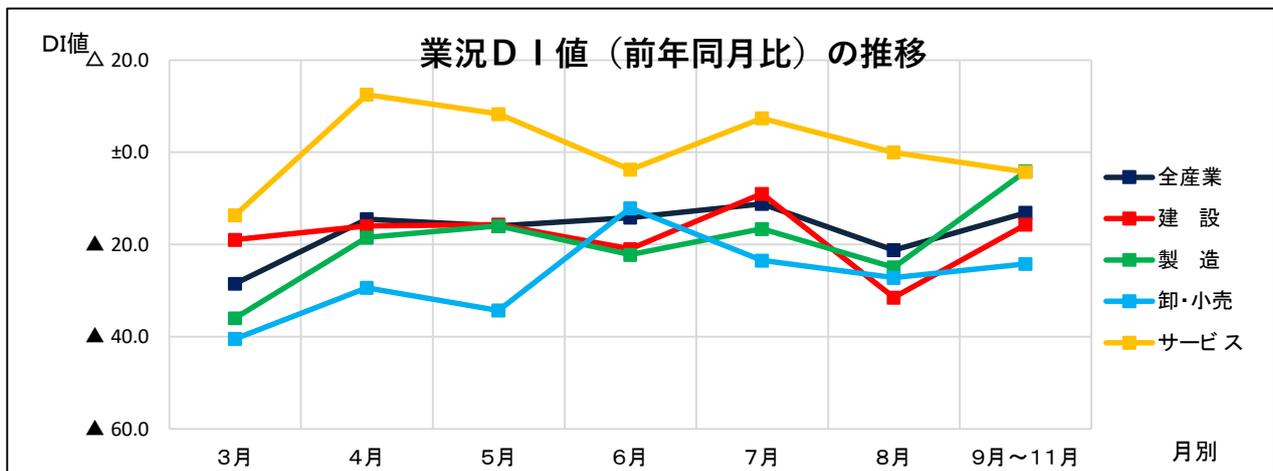
## 【業況について】

- 8月の全産業合計のDI値（前年同月比ベース、以下同じ）は、▲21.2（前月水準▲11.2）となり、マイナス幅が10.0ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月（9月から11月）の先行き見通しについては、全産業では、▲13.1（前月水準▲24.2）となり、マイナス幅が11.1ポイント縮小する見通しである。



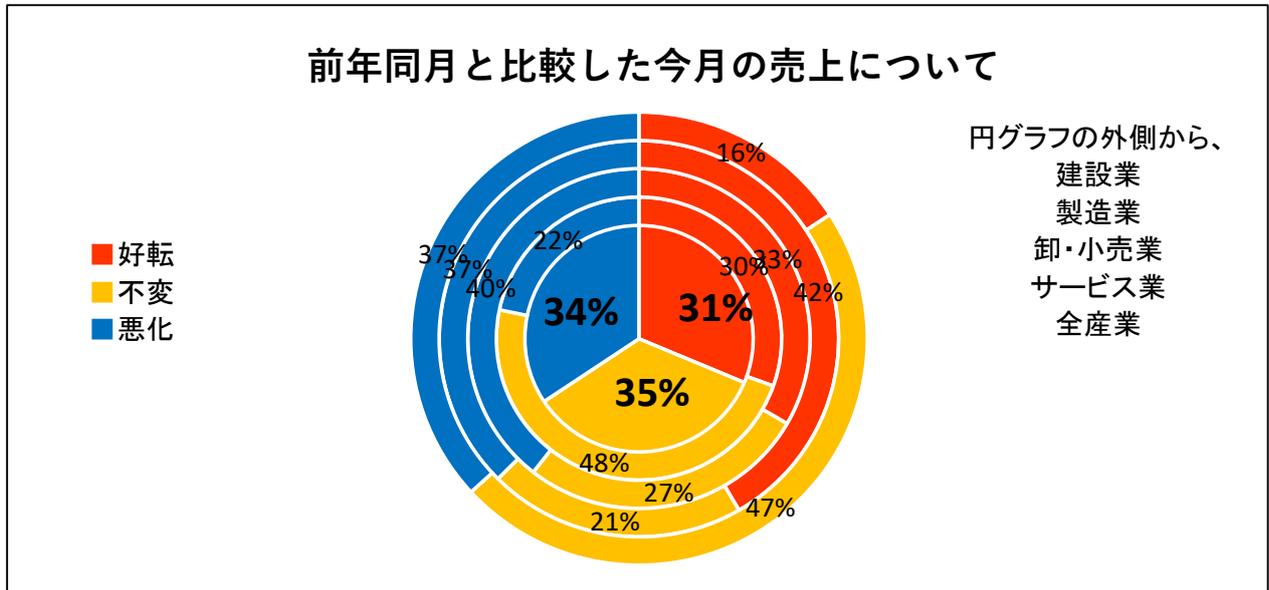
業況DI値（前年同月比）の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

|      | 令和4年  |       |       |       |       |       | 先行き見通し         |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|----------------|
|      | 3月    | 4月    | 5月    | 6月    | 7月    | 8月    | 9月~11月（8月~10月） |
| 全産業  | ▲28.5 | ▲14.5 | ▲16.0 | ▲14.2 | ▲11.2 | ▲21.2 | ▲13.1（▲24.2）   |
| 建設   | ▲19.0 | ▲16.0 | ▲15.7 | ▲21.0 | ▲9.0  | ▲31.5 | ▲15.7（△4.5）    |
| 製造   | ▲36.0 | ▲18.5 | ▲16.0 | ▲22.2 | ▲16.6 | ▲25.0 | ▲4.1（▲33.3）    |
| 卸・小売 | ▲40.5 | ▲29.4 | ▲34.3 | ▲12.1 | ▲23.5 | ▲27.2 | ▲24.2（▲50.0）   |
| サービス | ▲13.7 | △12.5 | △8.3  | ▲3.8  | △7.4  | ±0.0  | ▲4.3（▲7.4）     |



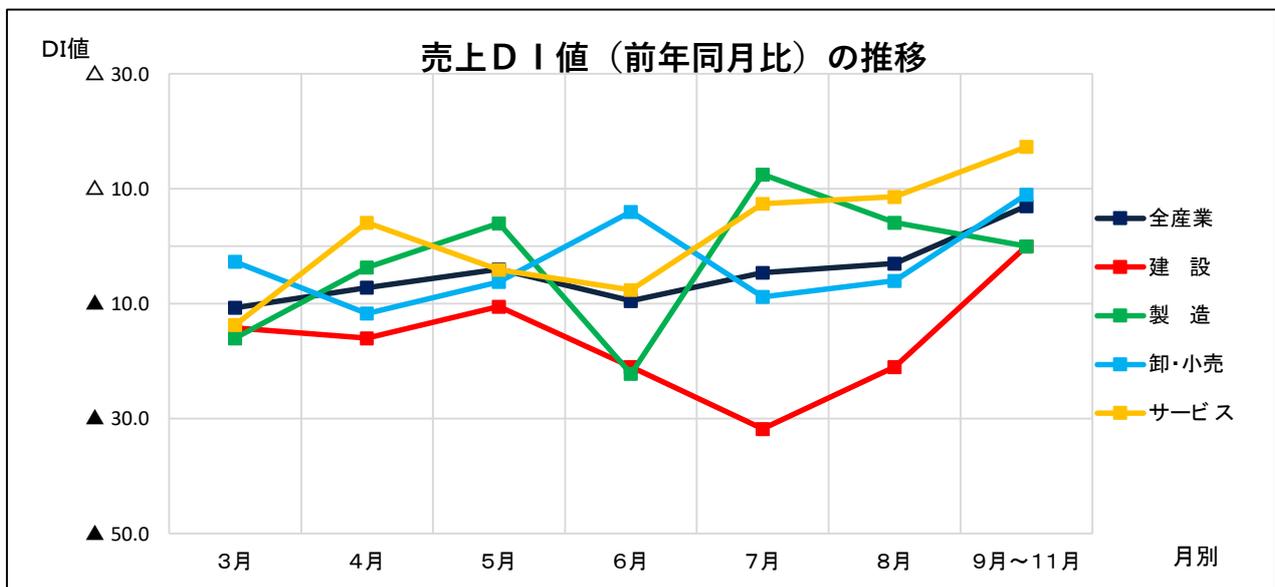
【売上について】

- 8月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲3.0(前月水準▲4.6)となり、マイナス幅が1.6ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月(9月から11月)の先行き見通しについては、全産業では、△7.0(前月水準▲11.2)となり、マイナス幅が18.2ポイント縮小する見通しである。



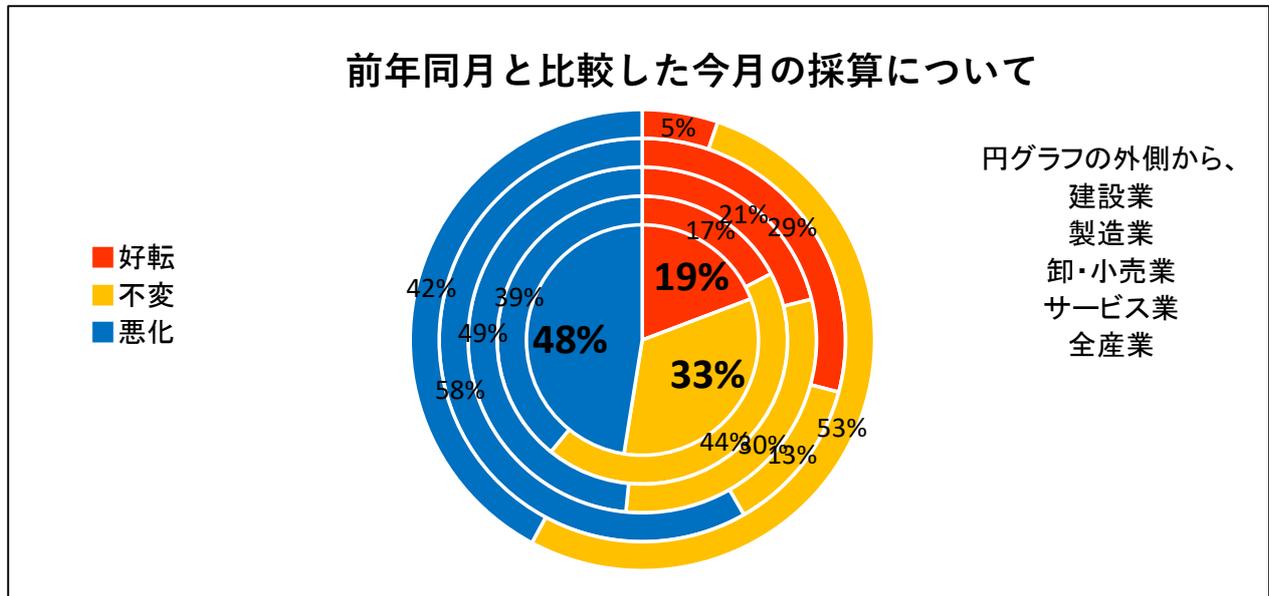
売上DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「増加」の回答割合-「減少」の回答割合

|      | 令和4年<br>3月 | 4月    | 5月    | 6月    | 7月    | 8月    | 先行き見通し<br>9月~11月(8月~10月) |
|------|------------|-------|-------|-------|-------|-------|--------------------------|
| 全産業  | ▲10.7      | ▲7.2  | ▲4.0  | ▲9.5  | ▲4.6  | ▲3.0  | △7.0(▲11.2)              |
| 建設   | ▲14.2      | ▲16.0 | ▲10.5 | ▲21.0 | ▲31.8 | ▲21.0 | ±0.0(△13.6)              |
| 製造   | ▲16.0      | ▲3.7  | △4.0  | ▲22.2 | △12.5 | △4.1  | ±0.0(▲20.8)              |
| 卸・小売 | ▲2.7       | ▲11.7 | ▲6.2  | △6.0  | ▲8.8  | ▲6.0  | △9.0(▲29.4)              |
| サービス | ▲13.7      | △4.1  | ▲4.1  | ▲7.6  | △7.4  | △8.6  | △17.3(±0.0)              |



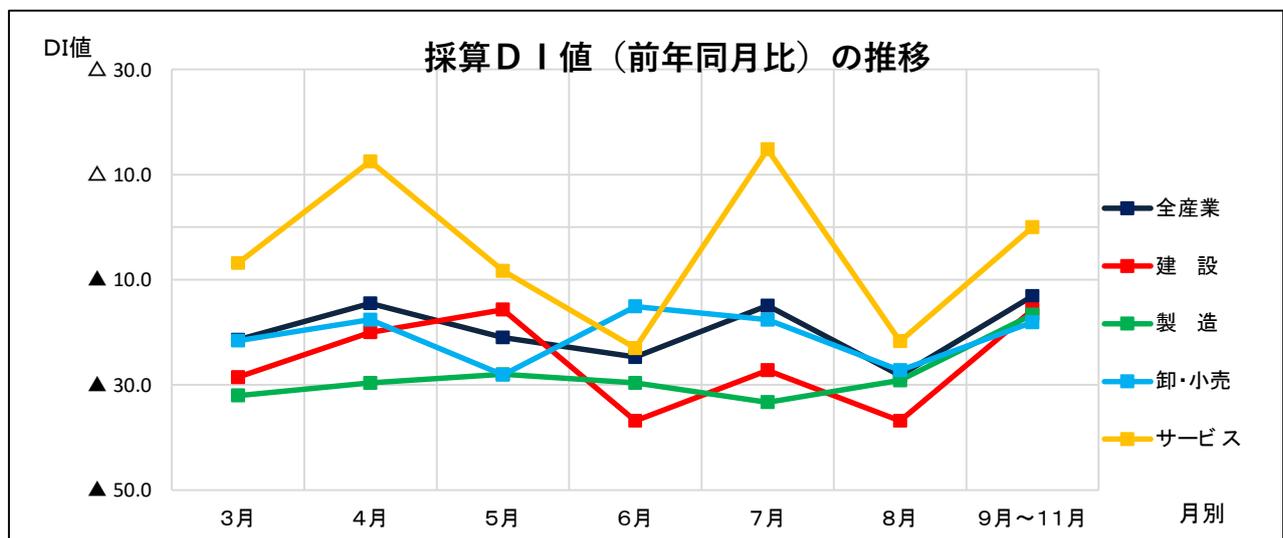
【採算について】

- 8月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲28.2(前月水準▲14.9)となり、マイナス幅が13.3ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月(9月から11月)の先行き見通しについては、全産業では、▲13.1(前月水準▲22.4)であり、マイナス幅が9.3ポイント縮小する見通しである。



採算DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

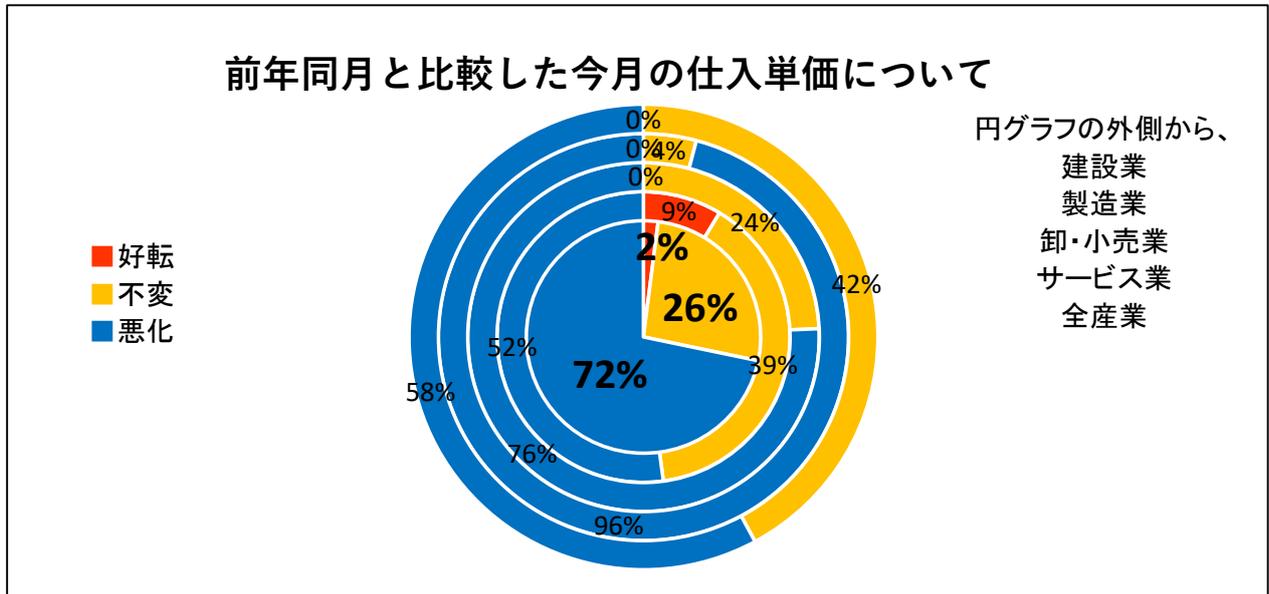
|      | 令和4年  |       |       |       |       |       | 先行き見通し         |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|----------------|
|      | 3月    | 4月    | 5月    | 6月    | 7月    | 8月    | 9月~11月(8月~10月) |
| 全産業  | ▲21.4 | ▲14.5 | ▲21.0 | ▲24.7 | ▲14.9 | ▲28.2 | ▲13.1(▲22.4)   |
| 建設   | ▲28.5 | ▲20.0 | ▲15.7 | ▲36.8 | ▲27.2 | ▲36.8 | ▲15.7(±0.0)    |
| 製造   | ▲32.0 | ▲29.6 | ▲28.0 | ▲29.6 | ▲33.3 | ▲29.1 | ▲16.6(▲41.6)   |
| 卸・小売 | ▲21.6 | ▲17.6 | ▲28.1 | ▲15.1 | ▲17.6 | ▲27.2 | ▲18.1(▲41.1)   |
| サービス | ▲6.8  | △12.5 | ▲8.3  | ▲23.0 | △14.8 | ▲21.7 | ±0.0(±0.0)     |



【仕入単価について】

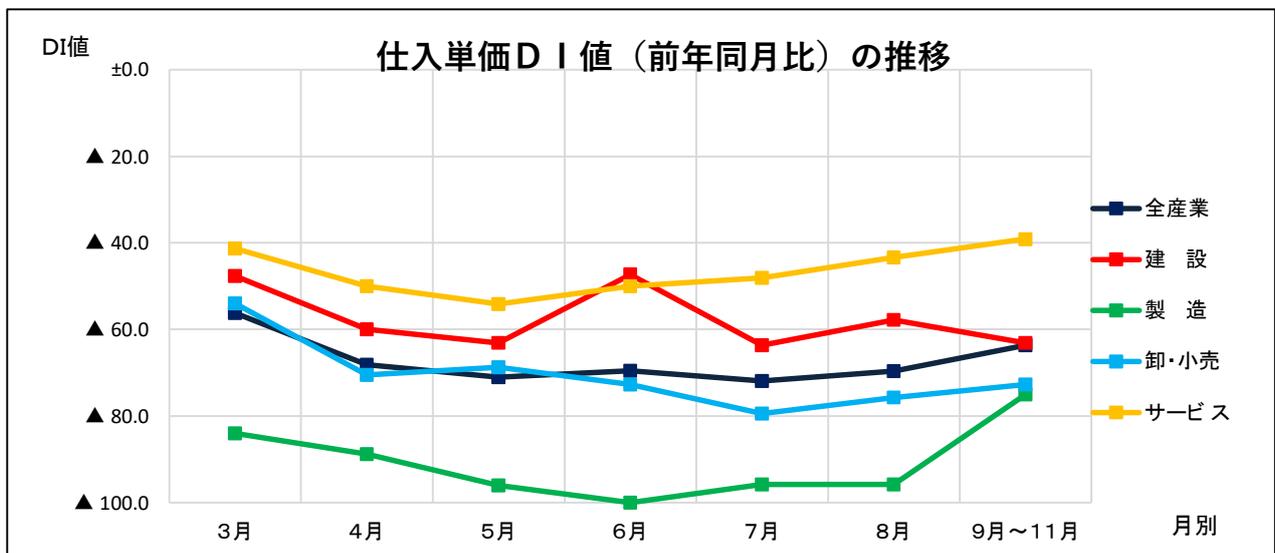
○ 8月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲69.6(前月水準▲71.9)となり、マイナス幅が2.3ポイント縮小した。

○ 向こう3ヶ月(9月から11月)の先行き見通しについては、全産業では、▲63.6(前月水準▲71.0)となり、マイナス幅が7.4ポイント縮小する見通しである。



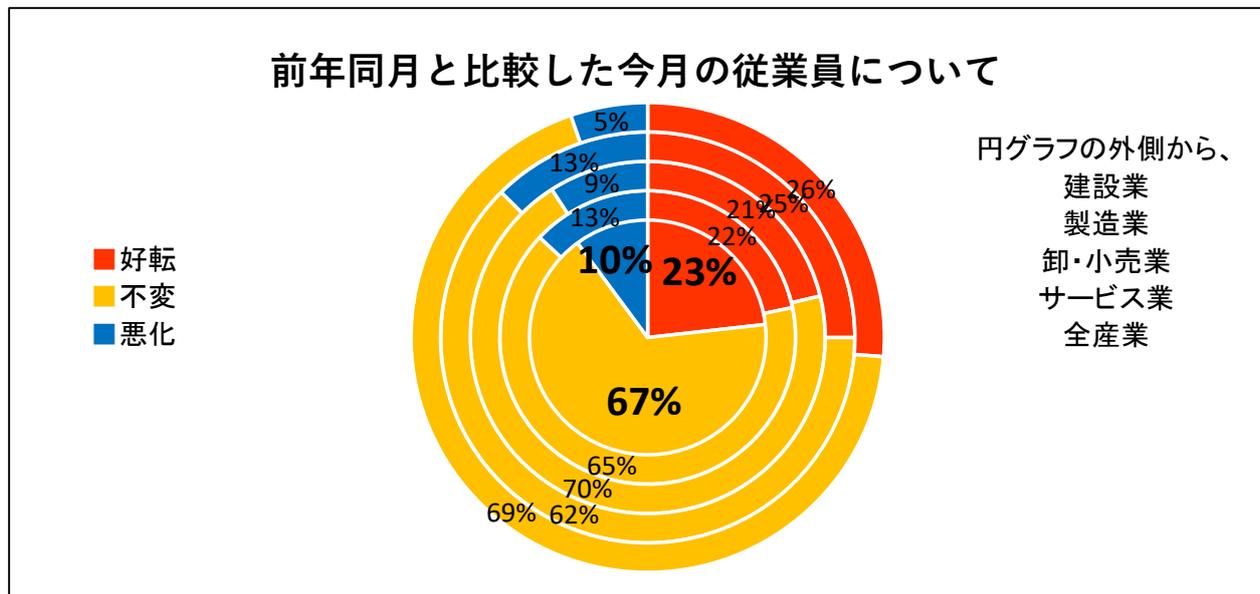
仕入単価DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「下落」の回答割合-「上昇」の回答割合

|      | 令和4年  |       |       |        |       |       | 先行き見通し         |
|------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|----------------|
|      | 3月    | 4月    | 5月    | 6月     | 7月    | 8月    | 9月~11月(8月~10月) |
| 全産業  | ▲56.2 | ▲68.1 | ▲71.0 | ▲69.5  | ▲71.9 | ▲69.6 | ▲63.6(▲71.0)   |
| 建設   | ▲47.6 | ▲60.0 | ▲63.1 | ▲47.3  | ▲63.6 | ▲57.8 | ▲63.1(▲63.6)   |
| 製造   | ▲84.0 | ▲88.8 | ▲96.0 | ▲100.0 | ▲95.8 | ▲95.8 | ▲75.0(▲91.6)   |
| 卸・小売 | ▲54.0 | ▲70.5 | ▲68.7 | ▲72.7  | ▲79.4 | ▲75.7 | ▲72.7(▲73.5)   |
| サービス | ▲41.3 | ▲50.0 | ▲54.1 | ▲50.0  | ▲48.1 | ▲43.4 | ▲39.1(▲55.5)   |



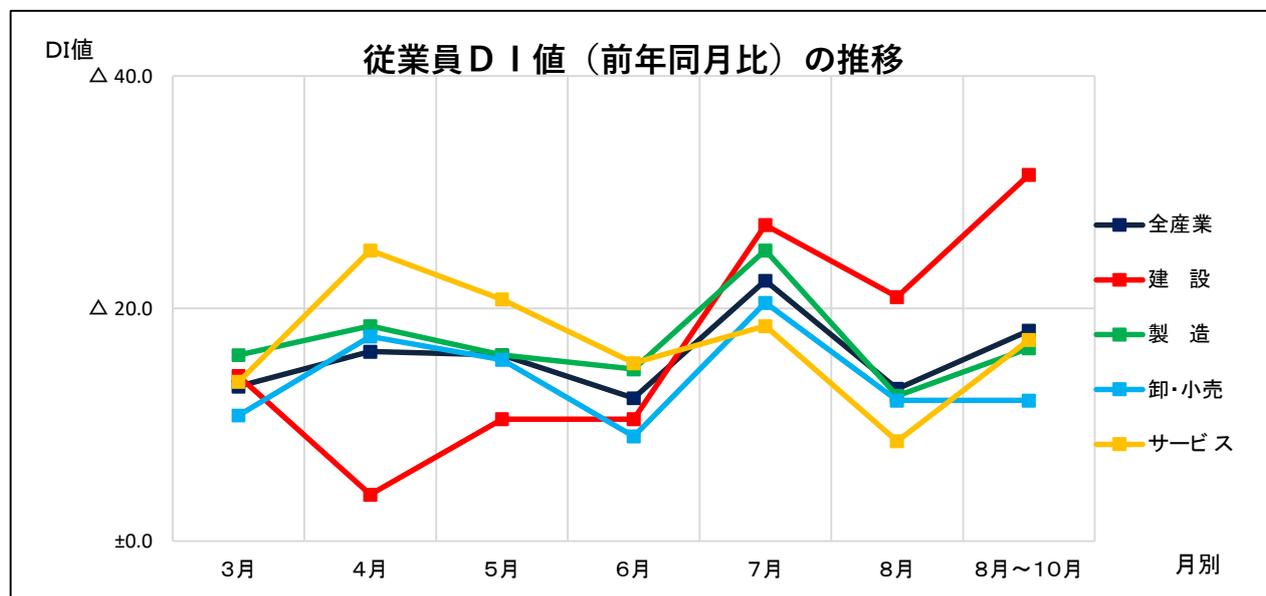
【従業員について】

- 8月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△13.1(前月水準△22.4)となり、プラス幅が9.3ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月(9月から11月)の先行き見通しについては、全産業では、△18.1(前月水準△23.3)となり、プラス幅が5.2ポイント縮小する見通しである。



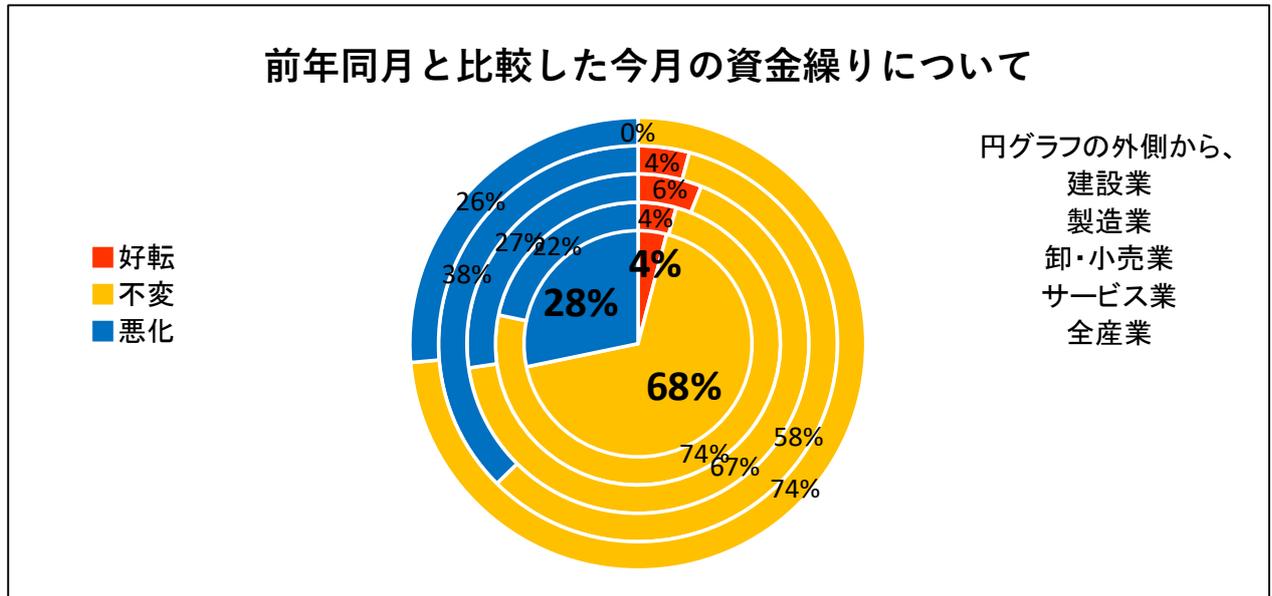
従業員DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「過剰」の回答割合-「不足」の回答割合

|      | 令和4年  |       |       |       |       |       | 先行き見通し         |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|----------------|
|      | 3月    | 4月    | 5月    | 6月    | 7月    | 8月    | 8月~10月(8月~10月) |
| 全産業  | △13.3 | △16.3 | △16.0 | △12.3 | △22.4 | △13.1 | △18.1(△23.3)   |
| 建設   | △14.2 | △4.0  | △10.5 | △10.5 | △27.2 | △21.0 | △31.5(△36.3)   |
| 製造   | △16.0 | △18.5 | △16.0 | △14.8 | △25.0 | △12.5 | △16.6(△16.6)   |
| 卸・小売 | △10.8 | △17.6 | △15.6 | △9.0  | △20.5 | △12.1 | △12.1(△23.5)   |
| サービス | △13.7 | △25.0 | △20.8 | △15.3 | △18.5 | △8.6  | △17.3(△18.5)   |



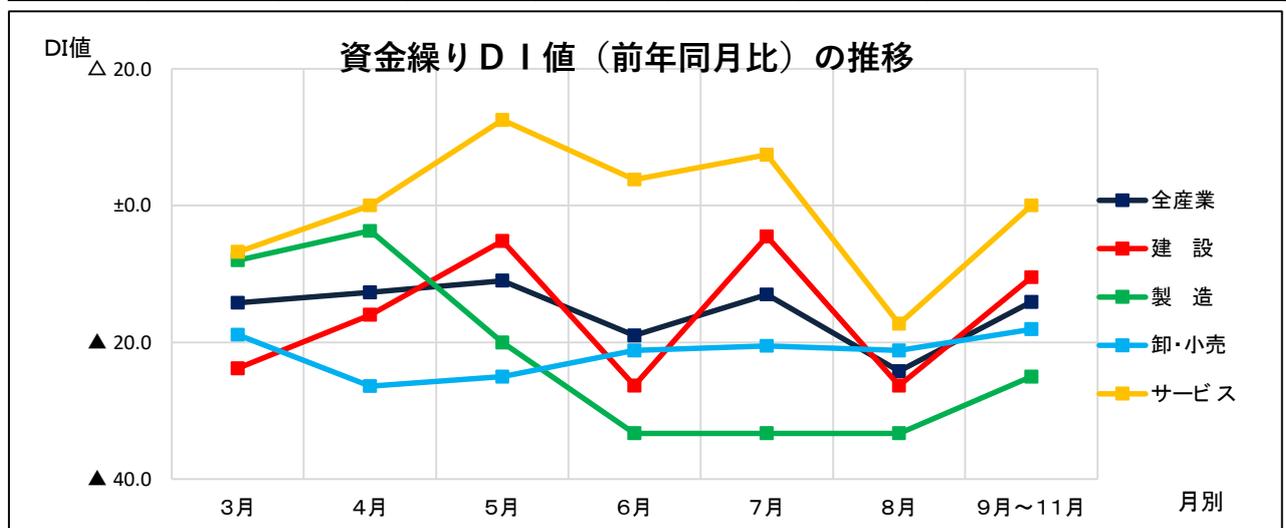
【資金繰りについて】

- 8月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲24.2(前月水準▲13.0)となり、マイナス幅が11.2ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月(9月から11月)の先行き見通しについては、全産業では、▲14.1(前月水準▲22.4)となり、マイナス幅が8.3ポイント縮小する見通しである。



資金繰りDI値(前年同月比)の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

|      | 令和4年  |       |       |       |       |       | 先行き見通し         |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|----------------|
|      | 3月    | 4月    | 5月    | 6月    | 7月    | 8月    | 9月~11月(8月~10月) |
| 全産業  | ▲14.2 | ▲12.7 | ▲11.0 | ▲19.0 | ▲13.0 | ▲24.2 | ▲14.1(▲22.4)   |
| 建設   | ▲23.8 | ▲16.0 | ▲5.2  | ▲26.3 | ▲4.5  | ▲26.3 | ▲10.5(▲4.5)    |
| 製造   | ▲8.0  | ▲3.7  | ▲20.0 | ▲33.3 | ▲33.3 | ▲33.3 | ▲25.0(▲41.6)   |
| 卸・小売 | ▲18.9 | ▲26.4 | ▲25.0 | ▲21.2 | ▲20.5 | ▲21.2 | ▲18.1(▲32.3)   |
| サービス | ▲6.8  | ±0.0  | △12.5 | △3.8  | △7.4  | ▲17.3 | ±0.0(▲7.4)     |

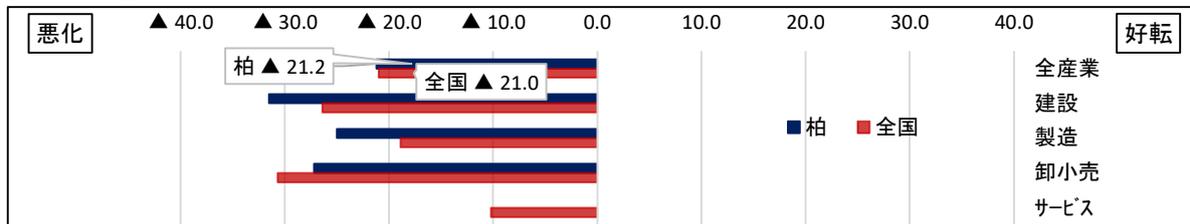


# 全国（CCI-LOBO）との比較

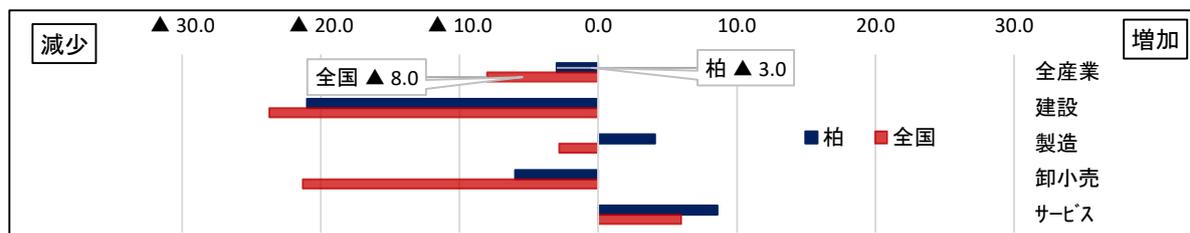
## 【CCI-LOBOとは】

日本商工会議所が各地商工会議所のネットワークを活用し、地域や中小企業が「肌で感じる足元の景況感」や「直面する経営課題」を全国ベースで毎月調査し、その結果を集計・公表するものです

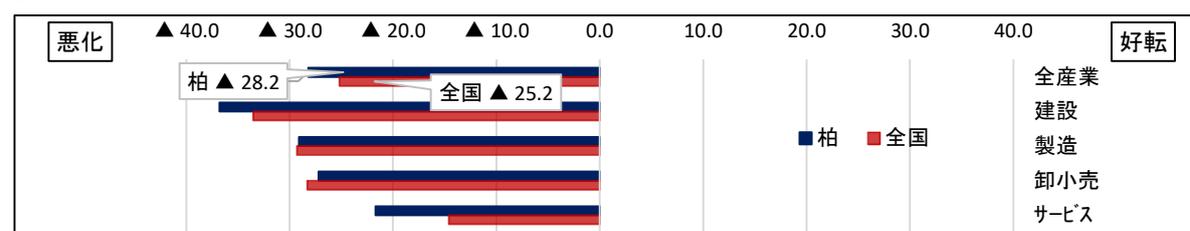
### 【業況DI】



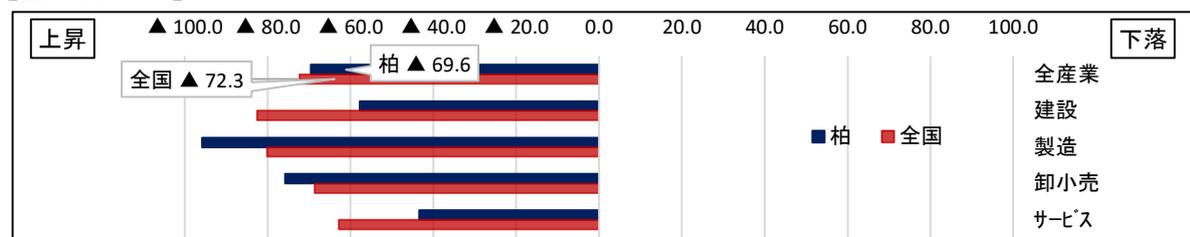
### 【売上DI】



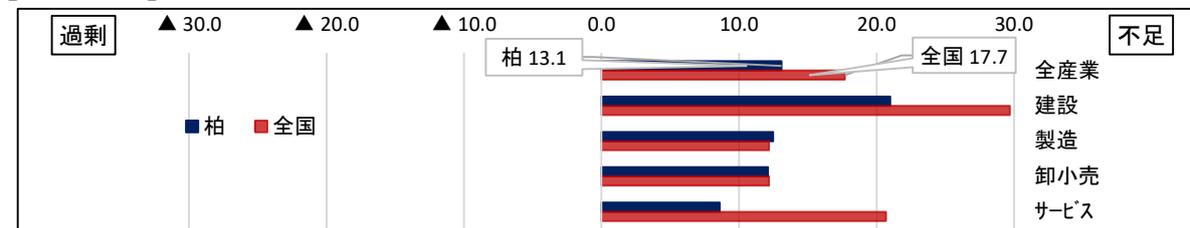
### 【採算DI】



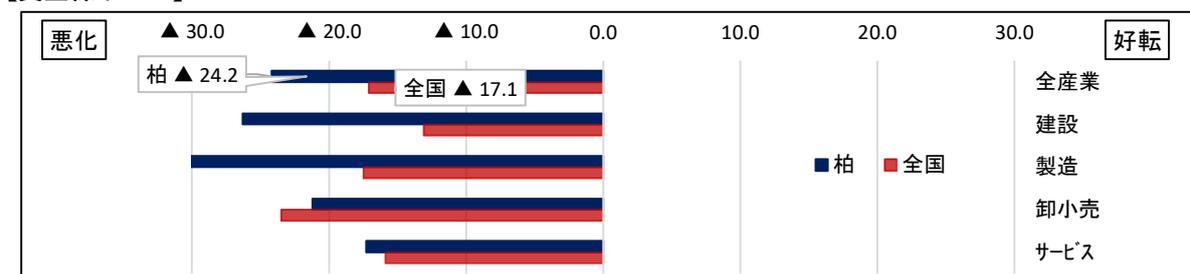
### 【仕入単価DI】



### 【従業員DI】



### 【資金繰りDI】



## 【業種別】業界内トピックス

| 業種別                         | 概況  | 業種           |
|-----------------------------|---|--------------|
| 建設業                         | 建築資材の高騰が続いている。  | 一般土木建築工事業    |
|                             | 資材高騰により利益が圧迫されている。  | 土木工事業        |
|                             | 色々な材料が高くなり続ける昨今、なるべく価格転嫁出来るようにしたい。  | 畳工事請負・畳製造販売業 |
|                             | 社内で感染者が多発したため、お盆休み明けには事務所をしばらく閉鎖しておりました。感染力が強いため、芋づる式に感染が広がってしまいました。感染してしまうことだけではなく、濃厚接触者になるだけで業務が止まってしまうので、社内で拡がるのかなり業務に影響が出てしまいます。早く特效薬ができることを期待するしかないです。   | 塗装工事業        |
|                             | 以前に比べ、外仕事なのでさほどコロナの影響は出ていない。相変わらず 仕入業者から単価の値上げについて案内が届く。以前は機械のリースについて案内は届いていなかったが、燃料の高騰に伴い、燃料を使う物に対しての単価の値上がりは驚くほど高騰している。   | とび           |
|                             | 屋上に太陽光パネルを余剰買取契約で設置しているので、日中今の時期はほぼ自家発電でまかなえている。  | 一般土木建築工事業    |
| 製造業                         | ここにきて従業員の感染が広がっている。納期遅延を出さないよう各部署で協力していかなければならない。   | 金属製品         |
|                             | 新型コロナの影響で落ち込んでいた医療品容器の受注に少し改善が見られた。が、化粧品容器に関してはまだまだ勢いが足りない。   | プラスチック加工     |
|                             | コロナ禍、半導体不足、物価高等々の影響を受け、業績は依然として好転の兆しが見えない厳しい状況です。   | 電子応用装置製造業    |
|                             | 半導体不足の影響で、在庫部品を増やして新規受注に対応する方向とするために、キャッシュフローが悪化してくる予定。   | 機械・同部品製造業    |
|                             | 景況が悪化している要因は、材料の高騰、仕入額の増大等利益の減少、と、半導体の入手困難、地政学リスクとコロナ禍に伴う売り上げの減少のダブルパンチ。カーボンニュートラル、SDGs、BCP、DX、働き方改、等取り組むことが必要な事も多くあり、中小企業にとっては厳しく不透明な状況が来年に向け続くと思われる。  | 金属素形材製品製造業   |
|                             | 新型コロナ第7波の影響で酒類の販売量が減少傾向となっている。また、エネルギーの値上げや、原材料の値上げが今後重くのしかかってくる。   | 酒類製造業        |
|                             | 売上のマイナス影響が続いているが、経費の見直し、製作の工夫により事業継続を目標にしている。   | 印刷業          |
|                             | 新型コロナウイルスのクラスター懸念にて、抗原検査キットを配付。電力・ガス単価上昇につき、採算ベースは悪化傾向のため、物品購入削減や修繕をミニマイズで努力。   | 鉄鋼業          |
|                             | 新型コロナウイルスの感染が、社員やその家族に広がっており、欠勤する社員も増えてきた。お盆の一斉休暇で落ち着いてくれれば良いが、休み明けもこの状態が続けば、事業にも影響が出てきそう。中国のコロナ対策による物流の混乱や、ロシア・ウクライナ紛争による混乱が長引く中、部品や材料の欠品、燃料費の高騰、円安による輸入品価格の高騰等、客先やエンドユーザーの先行きへの不安感が高く、消費が伸び悩んでいる。                           | 自動車付属品製造業    |
|                             | 常に流れている製品を作っているわけではないので、月ごとの動きは大きく変動していて、前年同月比というのは、弊社にはそぐわない感があります。コロナ後、いろいろな要因（異常気象、コロナ、ウクライナ問題等）で、ありとあらゆる部材が入手しにくく、また価格が上昇している。電子部品はじめ原材料を発注しても納期の見通しが立ちにくい状況が常態化している。現状いろいろな対策を取って何とかこなしているが、今後について改善の見通しがたたないのが非常に不安である。 | 電子機器製造業      |
| コロナで低迷し、そこから横ばい状態。今後に期待します。 | 大型小売店   |              |

## 【業種別】業界内トピックス

### 卸・小売業

|   |             |
|---|-------------|
| <p>依然として市内飲食店の卸市場利用者は少なく、テナントである弊社ほか、事業者は苦戦している。むしろ卸売市場の物流機能や集客機能に頼らない独自の販路を持つ業者が生き残っており、今後の卸売市場の在り方が問われる。弊社として売上の推移は好調といえるが包装資材を中心とした副材の値上げが段階的に続いている。適宜値上げをすべきだが特に業務用は競合もいることで値上げのタイミングが難しい。</p>  | 食料卸売業       |
| <p>お盆期間は昨年比に帰省する人が増加。コロナ前には及ばないものの、お土産物関連が動向が良かった。また、柏市とPayPayのポイント還元企画によりPayPayの利用が大きく伸びて売上の2割を占める。</p>  | 大型小売店       |
| <p>コロナ感染が一番身近に感じられる1ヶ月だった。陽性者が多くスタッフの管理が大変だった。値上げしても光熱費・原材料等の高騰に追いつかない。</p>   | 各種商品小売業     |
| <p>行動制限の無い夏休み、セール月で人流も改善し、売上高(取扱高)も前年と比較し大幅に改善。コロナ前(19年度)の水準まで戻る。外出ニーズも有り、被服・雑貨も好調に推移。</p>  | 百貨店         |
| <p>仕入れ単価の上昇が厳しい。仕方なく商品の価格を上げたが、これ以上は無理。</p>   | 洋菓子店        |
| <p>8月は柏市のPAYPAY効果があり、売上増ですが、電気代の増加が異常です。</p>  | 洋菓子店        |
| <p>今年の夏は猛暑日が多かったせいか、人通りが少なく、購買意欲も低く感じる。涼しく外出し易い日に客足が集中する傾向が見られる。</p>  | ペット用品販売     |
| <p>新型コロナウイルスや、ロシアによるウクライナ侵攻が30年の長きに渡る本邦のデフレ時代を終わらせる事になるとは皮肉なものである。新型コロナ対策として各国で金をばら撒くことでマネタリーベース、特に米国のマネタリーベースは未曾有の水準にまで達した。増加したマネタリーベースは、株式、原油や天然ガスを始めとするコモディティ、仮想通貨、旧車、限定品等ありとあらゆるものを吊り上げた。そして今年から始まるFRBによるテーパリングを見越し、バブルが著しい仮想通貨、NASDAQ、新興国市場が想定通り下落に転じていた矢先のウクライナ侵攻で、原油、天然ガス、木材価格を再び高騰させている。今回のロシアによる愚行は、新たな冷戦の始まりと見るべきである。コストアップインフレは始まったばかりである。</p> | 自動車卸売業      |
| <p>仕入れ価格、諸掛の上昇率が、商品の販売価格の値上げ率を上回っており、利幅が減少している。値上げをしても、その後仕入れ価格、諸掛が上昇してしまい、いたちごっこになっている。</p>  | 農畜産物・水産物卸売業 |
| <p>世界的なインフレの影響か、輸出先の国の景気が徐々に悪くなっている気がします。円安は業界的に追い風ですが、流石に今年の下半期は厳しい状況になるのかなと思います。国内各メーカーの新品が通常出荷に戻れば、物流業的には好転しそうですが、会社トータルで見ると世界的な景気減速の方が影響大きい感じです。早くコロナ収まって外国人観光客等も復活してくれると嬉しいです。あと中国が台湾に攻め込むと完全終了です。それだけは勘弁して欲しいなと思っています。</p>  | 産業機械器具卸売業   |
| <p>コロナのため欠席されると1週間以上の欠席となってしまうので、受講できなかった授業料を返金したり、また、希望する生徒には補習で対応したが、その補習にも人件費がかかってしまうため、経営的には予想以上の売上減と想定以上の人件費増加のダブルパンチとなってしまった。</p>   | 学習塾         |
| <p>経験者不足。</p>   | ソフトウェア業     |
| <p>賃貸住宅需要が増え、特にファミリー向け賃貸需要(2LDK以上)は、賃料が上がってきている。</p>  | 不動産賃貸・管理業   |
| <p>感染者数の拡大により、7月後半より予約キャンセルが続き、売上が大幅に減少。</p>  | 日本料理        |
| <p>購入の問い合わせ件数は、季節要因で減少している。売却相談は、相続や空き家売却の引き合いがコンスタントに入っています。市況としては、売り物件が少ない状況です。</p>   | 不動産管理業      |
| <p>標準的な運賃提示による運賃値上げ交渉は、遅々として進まないなか、燃料費、電気料金等の公共料金等の高騰により売上は維持できても利益が目減りする状況が続いている。業界を挙げての運送費の底上げも効果は限定的で、今後もこの状況が続くと業界の淘汰も始まることが懸念される。</p>  | 一般貨物自動車運送業  |

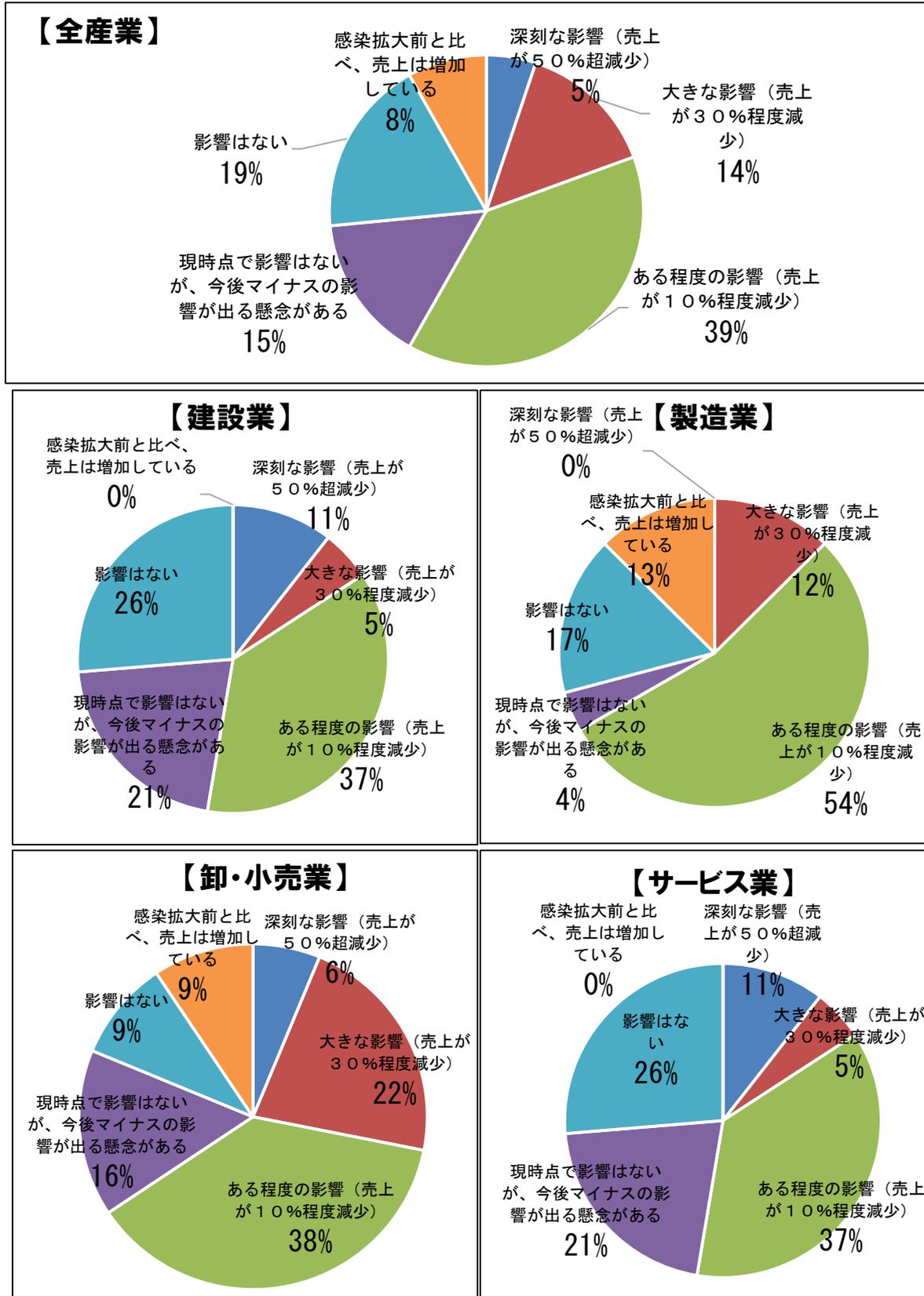
## 【業種別】業界内トピックス

|       |  |            |
|-------|--|------------|
| サービス業 | 消費行動自体が冷え込んでいるように感じる。特に教育費の削減を検討しているご家庭は多い。  | 教育サービス業    |
|       | 仕入れ単価の上昇と付帯作業の廃止により収益を圧迫している。  | 一般貨物自動車運送業 |
|       | 新型コロナウイルスの感染が収まらないために、新規顧客開拓営業の困難な状況が続いている。  | 土木建築サービス業  |
|       | コロナの影響による経済活動は徐々に改善されていくものと思われ、景況は上向くものと思われるが、円安・物流コストの増加などで著しい改善は難しいと思われる。弊社の場合、公共事業に依存する割合が大きい。カーボンニュートラルに関して、再生可能エネルギーの増加が考えられるが、その一環として地熱開発・風力発電に対する地質調査が増えている。また、防災の一環として河川堤防の改修・新設に対する調査も予定されている。地熱開発や堤防調査など規模が大きい案件が控えているので、資金繰りは好転するものと思われる。 | 土木建築サービス業  |
|       | 最近のコロナ第7波、円安等の影響を受けることなくアドバイザー業務は堅調に推移。  | 専門・技術サービス業 |
|       | 設備投資に対する補助制度などはないものか。今後設備の更新を多く控えているのでサポートが欲しい。料金に簡単に転嫁できない業種としては、最低賃金引き上げや物価上昇は非常にきつい。  | ゴルフ練習場     |

附帯調査結果

# 新型コロナウイルス感染症の影響について

○新型コロナウイルス感染拡大前と比べた、今月の売上について



# 調査要領

調査期間

令和4年8月22日 ～ 令和4年9月2日

調査対象

柏市内148事業所及び組合にヒアリング

<業種別回収状況>

| 調査産業 | 調査対象数 | 回答数 | 回収率   |
|------|-------|-----|-------|
| 全産業  | 148   | 99  | 66.9% |
| 建設   | 31    | 19  | 61.3% |
| 製造   | 37    | 24  | 64.9% |
| 卸・小売 | 45    | 33  | 73.3% |
| サービス | 35    | 23  | 65.7% |

調査方法と調査票

下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

| 質問事項              | 回答欄                |         |         |                            |         |         |
|-------------------|--------------------|---------|---------|----------------------------|---------|---------|
|                   | 前年同月と比較した<br>今月の水準 |         |         | 今月の水準と比較した向<br>う3ヶ月の先行き見通し |         |         |
| a.売上高（出荷高）        | 1<br>増加            | 2<br>不変 | 3<br>減少 | 1<br>増加                    | 2<br>不変 | 3<br>減少 |
| b.採算<br>（経常利益ベース） | 1<br>好転            | 2<br>不変 | 3<br>悪化 | 1<br>好転                    | 2<br>不変 | 3<br>悪化 |
| c.仕入単価            | 1<br>下落            | 2<br>不変 | 3<br>上昇 | 1<br>下落                    | 2<br>不変 | 3<br>上昇 |
| d.従業員             | 1<br>不足            | 2<br>適正 | 3<br>過剰 | 1<br>不足                    | 2<br>適正 | 3<br>過剰 |
| e.業況              | 1<br>好転            | 2<br>不変 | 3<br>悪化 | 1<br>好転                    | 2<br>不変 | 3<br>悪化 |
| f.資金繰り            | 1<br>好転            | 2<br>不変 | 3<br>悪化 | 1<br>好転                    | 2<br>不変 | 3<br>悪化 |

質問B 業界内のトピック（記述式）

## ※DI値（景況判断指数）について

DI値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

$$DI = (\text{増加・好転などの回答割合}) - (\text{減少・悪化などの回答割合})$$

## ※DI値と景気の概況

| DI ≥ 50   | 50 > DI ≥ 25  | 25 > DI ≥ 0   | 0 > DI ≥ ▲25  | ▲25 > DI  |
|---|---|---|---|---|
| 特に好調  | 好調  | まあまあ  | 不振  | 極めて不振   |
|  |  |  |  |  |